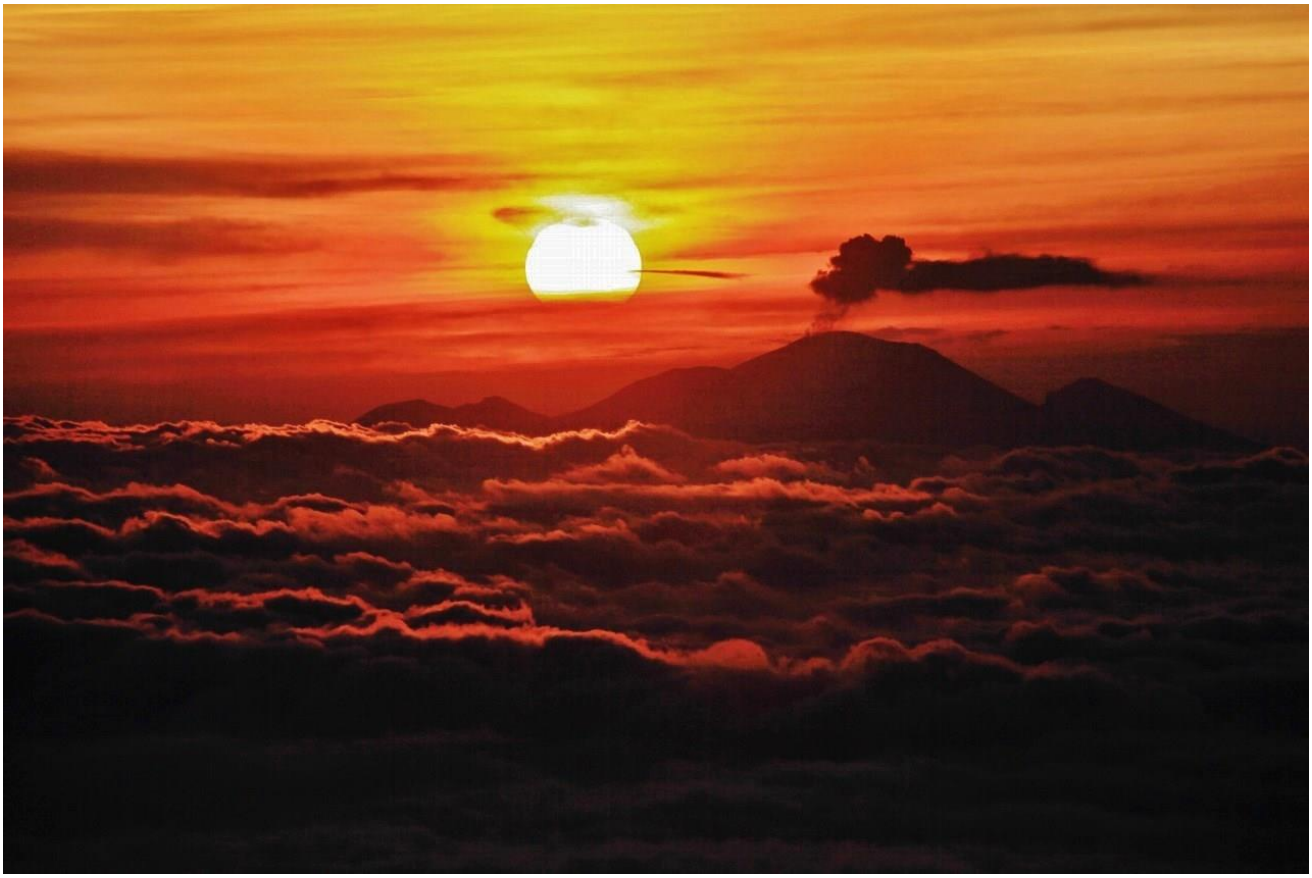
山岳友の会会報

2021 年 1 月　第 39 号



浅間山日の出　撮影：荻野　秀夫

も　く　じ

年頭のご挨拶　会長　山口　孝……2
副会長　竹原　文子……2
今年の抱負　運営委員長　小林　久雄……2
第 48 回現地研修会（黒斑山）　報告 1　副会長　熊谷　久……3
報告 2　坂本　孝……4
報告 3　小林　久雄……5
第 18 回憧憬の森講演会・会員集会　報告　小林　久雄……6

年頭のご挨拶

友の会会長　山口　孝

皆様方、新年明けましておめでとうございます。
昨年はコロナ禍で大変厳しい山のシーズンとなりました。
地震、大雨、土砂崩れと災害にも見舞われ、登山道が流失する被害もありました。
各山小屋はコロナ対策に追われ、人数制限もした為、山小屋利用者は例年の３割ほどで大変な苦境に追い込まれました。
そんな中でも例年通り、快適な山小屋の維持、補修、及び登山道整備に小屋番総出で取り組んできました。夏山シーズンまで登山者「０」だったので、集中して山のいいお仕事ができました。特に登山道整備を目一杯やり、とても歩きやすくなりました。
こんな中、紅葉シーズンに多くの若い人達（特に女性の方）が涸沢にやって来たので、少し明るい山の未来が見えて嬉しくなりました。
コロナ禍の早い終息を願ってやみません。
どうせ生きてゆくなら、明るく、楽しく、生きてゆこうと思う今日この頃です。
友の会の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

友の会副会長　竹原　文子

明けましておめでとうございます。
みなさまつつがなくお過ごしでしょうか？

2020 年は新型コロナの影響で中止になった研修会や、遠くから参加してくださる会員さんの減少など、寂しい限りでした。
大勢のみなさまと和気あいあいと山に登ったり、賑やかに会食できることが、いかに楽しかったと思いしらされました。
今年の状況はまだまだ不透明ですが、一刻も早い新型コロナの終息を願っています。

こんな状況ですが、ありがたいことに私たちのイベントはアウトドアがほとんどです。
お互いにできる限りの対策をとりながら、自然を楽しみたいですね。
会員のみなさまが自由に行き来ができて、楽しく談笑できる、そんな日が一日も早く訪れますよう祈っています。

今年の抱負『戻っておいで私の時間』

運営委員長　小林　久雄

２０２０年は【コロナ禍の一年】でしたね。
当初、東京五輪で賑やかな令和の幕開けの予定が、新年から新型コロナウィルス感染でオリンピック観戦も遠退き、個人的には母の永眠や父の施設入り等々.....例年の涸沢ヒュッテ通いもままならず.....松本民芸館のお掃除を細々と続ける自粛生活。そんな日々の一年間でした。

さて、新しい今年は『戻っておいで私の時間』。手を伸ばせば、そこに私の時間が広がる優しいチョイと気侭な時がある。
山に登り、酒を愉しむ豊かなゆったりとした時が、きっと青春が、聞こえる。
サラリーマン生活を始めてから半世紀。これからの五年間は素敵なはずだ。
取り戻せない時は諦めて、残された時間をコントロールするのだ。
♪「木枯らしよ　何を何処から　夢連れて　ここに幸あれ青い空　そこにも幸あれ白い雲」♪

黒斑山・蛇骨岳の散策レポート
―第 48 回現地研修会（黒斑山）報告　その１－

友の会副会長　熊谷　久

9 月 9 日(水)の気象予報は曇り後雨で、第 48 回の現地研修会も 7 月の燧ヶ岳・至仏山に続いて雨の中での山登りになることを覚悟していましたが、昨年の早池峰山以来の好天に恵まれました。出発の前に私の頭の中でルート検索すると、松本市里山辺の自宅から集合場所の車坂峠までの所要時間は 約 2 時間であることから、集合時間に遅れないよう 6 時半少し前に家を出て、無料化された三才山トンネルを抜けて上田市丸子を通り、東御市田中の千曲川を渡った頃が 7:30。予定より早く到着しそうだなと思ったことが大間違い。国道 18 号の横断から浅間サンラインの小諸 IC 北交差点辺りまで断続的な渋滞で、車坂峠の高峰高原ビジターセンター駐車場に到着したのは、集合時間ギリギリの 8:25。しかし、そこで待っていてくれたのは坂本さんと竹原副会長だけでした。

本日の参加者 9 名がそろって黒斑山登山口を出発したのは 9:25。黒斑山(表)コースの赤い登山道やシラビソの樹林帯に咲く高山植物を楽しみながら大汗をかいて登ること 1 時間 15 分、目の前に前掛山の雄大な姿が現れた。私が 8 年前に登ったときは濃霧のために見られなかった景色と共に槍ヶ鞘の道標が迎えてくれた。左手前方にはトーミの頭とそれに続く急坂が待ち受けている。トーミの頭には 11:00 着。ここからはJバンドまで続く外輪山の大崩壊斜面と湯の平から賽の河原までの雄大な景色を見通すことができ、前掛山の偉容と併せた大自然を十分に堪能する。草すべりへの分岐から黒斑山までは 20 分程。8 年前に泣く思いをして草すべりを登った記憶が蘇る。右手に前掛山と釜山火口からの噴煙を見ながら快いアップダウンを繰り返し、蛇骨岳には 11:50 着。先行の鈴木教授と立花さんは、20 分以上前に到着していたとのことで、お二人の変わらない健脚に脱帽！！

ここで弁当を食べてから集合写真を撮ろうとしていたら、あっという間にガスが巻いてきて 360 度真っ白となってしまった。下山開始は 12:15 で、来た道を黙々と下っていく。黒斑山で登山道の整備を担当している若者集団に出会い、感謝と詠嘆の言葉から暫し会話が続く。若者の中に富士山の登山ガイドがいて、今年の新型コロナ禍による登山禁止から、止む無く、この登山道整備をしているとの話を聞く。彼らの整備した登山道は、土木工事のプロフェッショナルに引けを取らない出来映えである。彼らに下山道の黒斑山(中)コースを勧められ、トーミの頭を下った分岐から右に折れ、直射日光を遮ってくれる樹林帯を下っていく。8 年前の下山は、雨水にえぐ

られた狭く深い溝の道で、転石がゴロゴロした河原のような悪路に難儀したが、登山道整備の若者らに教えられた溝道の右側コースは、歩き易く整備されていた。

高峰高原ビジターセンターには 13:55 着。車で高峰高原ホテルへ移動して 800 円の日帰り温泉を堪能する。今回は、往復 4 時間半の行程だったが、今年 65 歳を迎える私には丁度良い山登り。燧ヶ岳と至仏山も十分楽しかったけれど、無理をしない登山も大歓迎です。

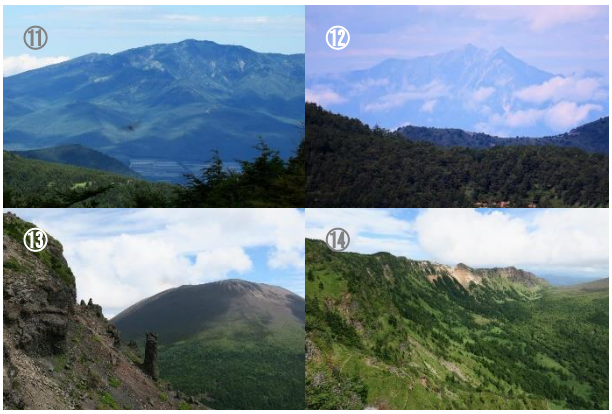
【写真：荻野　秀夫】

第 48 回現地研修会（黒斑山）報告　その２

坂本　孝

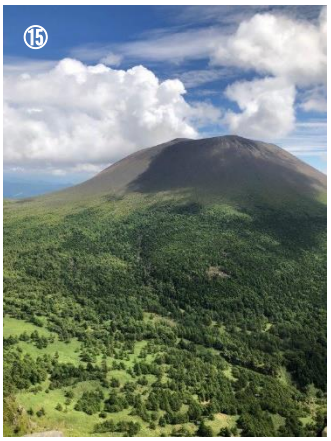
9 月 9 日(水：晴れ／曇り)に長野・群馬県境の浅間山(2568m)西方に連なる第一外輪山の主峰黒斑山(2404m)から蛇骨岳（2366m）経由Jバンドへの予定で現地研修会を実施しました。小諸市内からチェリーパークラインの車坂峠（1973m）へ、途中虚子や一茶の句碑①を眺め早朝の澄んだ空気の中に富士山②や八ヶ岳、蓼科山③を望みながら登りきると車坂峠④に到着。高峰高原ビジターセンター駐車場⑤に参加者 9 名が集合、準備運動⑥後峠のポストに登山届を提出、ハクサンフウロ、マツムシソウ等⑦⑧⑨を見ながら表コース登山口から緩やかなカラマツの生える登山道へ。斜面にシラタマノキ(実は例のサロメチール臭が…)⑩の群生が、これ程沢山の白い実が見られる登山道は珍しいのでは、今年は当たり年かも…車坂山の開けたところで小休止、根子岳から四阿山の麓に嬬恋村⑪が見え、またここからも富士山、八ヶ岳を始め南、中央、北アルプスの山影⑫を見ることが出来、遠くには焼山、火打山、妙高山らしき山影が…車坂山から下り、急な登りの先に赤茶けた色のシェルターがありその脇を抜けるとその先に「槍の鞘」が、ここからの浅間山⑬の眺望は素晴らしい。槍の鞘から少し下り急なガレ場噴火痕跡の脇を登ると溶岩堆積のピーク、トーミの頭のトーミは農機具の唐箕/とうみから付いた名前で、その名の通り絶えず強い風が吹くと言われていますが、登山当日は爽やかな秋風が吹いていました。トーミの頭の東面は数百メートル切れ込む断崖絶壁に、ここからは浅間山を中心に槍の鞘、トーミの頭、これから向かう黒斑山、蛇骨岳、Jバンドと続く第一外輪山⑭（約 5 万年前には高さ2800～2900m の美しい円錐形で、約３万年前の爆発によって、現在のような半円形の断崖になったと言われています）第二外輪山の前掛山との裾野に広がる火口原が湯ノ平⑮で、緑の低い草木の中に池塘が点在しているのが見え、その先に「賽の河原」と言う場

所があります。



トーミの頭から絶壁の火口壁の縁の赤茶の岩場を下り、登り返すと黒斑山山頂に到着、案内書等に依ると黒斑山の活動が始まったのは、10 万年程前にさかのぼると言われ、浅間火山の最も古い山体で、その後標高 2800～2900m 程の成層火山に成長したと見られる。

2 万 3000～2 万 4300 年前、プリニー式噴火と呼ばれ様々な火山の噴火形式の中で破局噴火やカルデラ形成に次いで膨大な噴出物やエネルギーを放出し、地下のマグマ溜まりに蓄えられていたマグマが火道を伝って火口へ押し上げられる際、圧力の減少に伴って発泡し、膨大な量の灰を噴出しこれら噴石や火山灰、火山ガスを主体として構成された噴煙柱の高さは通常でも10,000m、時には成層圏に達し、50,000m（成層圏界面）を越えることもあり、これに伴って大規模な山体崩壊が生じて馬蹄形カルデラが形成され、現在の黒斑山はその際崩壊せずに残った西半分で、この山体崩壊による岩屑なだれは、北に向かったものは吾妻川に流入し、さらに下流の利根川に流入して、前橋まで達し、前橋台地を形成。南に向かったものは、佐久市岩村田西方の塚原付近にまで到達し、多数の流れ山を形成した。この岩屑なだれのうち、北に向かった前者は通過した地区に由来して応桑岩屑なだれ、南に向かった後者は塚原土石なだれなどと呼ばれ、山体崩壊後も活動は続いたが、2 万 1000 年前頃には黒斑火山としての活動を終えたものと考えられています。黒斑山山頂脇には金網フェンスで囲まれた火山ガス計測機器が設置されていて、ここから林の中を通り約 30 分で蛇骨岳山頂に到着、早速昼食午後からはお決まりのガスが湧き出し、視界も悪くなりここから先のJバンド行きは次回のお楽しみとして今回はここまでとして、車坂峠へ下ることに。トーミの頭を下った先の分岐を登りとは別の中コースを下りました。このコースは樹林帯あり、ガレ場あり、階段あり、掘割あり大雨が降れば、流れの早い沢に変身することでしょう。高峰高原ビジターセンターが見える辺りまで来ると笹のしげるなだらかな登山道に変わりました。全員無事駐車場へ到着。帰途ビジターセンターからすぐ横の高峰高原ホテルの日帰り入浴施設を利用して登山の汗を流してからの解散となりました。ご参加の皆さんお疲れ様でした！



今回の黒斑山登山のご計画をして頂きました幹事の皆様方有難う御座いました。
集合時間を守りましょう！遅れる場合は連絡し合いましょう！
NST(長野時間)を使用しないで JST(日本標準時)を使いましょう！

黒斑登山　浅間山眺望
―第 48 回現地研修会（黒斑山）報告　その３―

小林　久雄

９月９日（水）コロナ禍でイベントの中止続きで心配の苦月がスタート。遠方から坂本さんの参加で、９名が車坂峠に集結し黒斑・蛇骨を目指しました。

台風９号１０号で湿気と暖気の列島に秋の寒気と少し心配の天候でしたが.....爽やかな峠を元気に登りはじめました。

1951 年生まれで佐久の医師で芥川賞作家の南木佳士『草すべり』は黒斑が舞台。
・・・・・高校生時代の同級生　兼松沙絵との浅間山登山のお話。『ああ、これだね、ここだったね。』 で、はじまる。自然界の命の遷移、極相林や陽樹と陰樹等々.....やがて沙絵の病に命が尽きる。医師ならではの山岳・恋愛小説・・・・・
他に「陽子の 1 日」「小屋を燃す」「先生のあさがお」、『ダイヤモンドダスト』で 1989 年に第 100 回芥川賞となる。
表コースを順調に登り雄大な浅間を眺望、トーミの頭から黒斑更に蛇骨と楽しみました。
帰りは中コースをくだり、高峰温泉ホテルで眺望温泉も愉しみ無事に解散。
日帰り登山ですが.....こんな折、山岳小説もお楽しみ下さいませ。

【写真：荻野　秀夫】

第１８回憧憬の森講演会・会員集会報告

小林　久雄

第18回憧憬の森講演会は鈴木教授から『南極観測の生活と環境保全』のお話をたっぷりとしていただきました。
教授は二度の南極生活を経験しておられ、今回は基地での部屋の様子や食事の事等々の生活ぶりなどが詳しくわかりやすく写真を交えてお話されていたので、会場は和やかな雰囲気でコロナ禍を一瞬忘れるひと時でした。
特にドームふじ基地での氷のボーリング調査は、解析のための場所(部屋)づくりが大変そうでした。除雪機で雪を掘り進み解析用の部屋やテーブルや屋根などを作るので、ご苦労があったことがよく伝わりました。

南アフリカのケープタウンを経由して飛行機での南極入りした事や他国の基地にも滞在したこと、また極地で標高が高いドームふじ基地での高地順応の苦労もあった事などの様子も良く理解出来ました。
基地での生活では、お風呂の待ち時間に「ガラスの仮面」などの漫画本を読むとか、テレビの「おしん」の話なども皆の笑いを誘って、素敵な憧憬の森講演会になりました。

講演会の後、次年度の研修会予定などについても皆さんの意見を聞いて、11年目を愉しみたいと思います。でもまずは、3月の【春待つ西穂高山荘】などなど.....コロナ禍に負けずに大勢の参加を期待します。

※第 49 回現地研修会（美ヶ原）は新型コロナウィルス感染症拡大を受け中止となりました。

【写真：荻野　秀夫】

信州大学山岳友の会会報　第 39 号
発行日：2021 年 1 月 13 日　発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332　FAX：0263-37-2438　E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp